

坑内で感電の爲、犠牲なられた。寔に残念であります。私は私が所長在任中、殉職犠牲なられた人の氏名を、自分で白

たが、之は怪我をしないので云ふ意味ばかりでなく、親父が笑顔で出て行つて、笑顔で歸る家庭は、必ず圓滿受合であつた。夫に笑

内郷村報の 六六使命

- 一、政策推進を期して、村力充実主義を標榜す。
- 二、村内公私各種團體の活動状況を報導し併せて其協力を計り、進取和進努力の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村と本村出資者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人則
ニ從順ナ
ルベシ

感謝報恩の生活

梅津磨君の結婚祝辭

福島縣海外協會 常務理事 大内民恵

予が協會を代表して、布哇東亞視察團一行を、横濱埠頭に迎へたのは、去る三月三十日であつた。かくて平安樓に於ける、「日本郵船」の歓迎宴會中、一行中の布哇馬哇馬バイアから歸られた、高橋ヨシエ女史が、「三井生命」に勤務する、令息梅津磨君を予に紹介せられ、私が歸朝中に、是非共に良縁を得させたいと思ふから、其御斡旋を願ひたいといふ御依頼があつたので、夫々微力を致して居つたところ、宮城縣塩釜町縣議栗野豊助氏の御盡力、稻村氏御夫妻の御媒酌で、同町相澤家の令嬢千代子さんとこの間に、婚約が成立し、九月十二日午後二時より塩釜神社に於て、嚴肅なる神前結婚式を挙行し、引き續き翌月樓に於て、盛大なる披露の宴が開かれたのであつた。此一文は其結婚式場に於ける、予が祝辭の梗概である。

私はここに、福島縣海外協會を代表して、祝辭の一言と、希望の一端とを申し上げやうと存じます。

晴れ渡りたる今日のよき日、産業の神、出産の神として、全國に有名にして、効驗あらたかな塩釜神社のこの尊嚴なる神前に於て、關係者一同之に參列して、梅津磨君、相澤千代子嬢の結婚式を舉行せられ、私も亦其式場に參列するを光榮とすると共に、橋本會長(知事以下、全世界に散在する、一千有余名の會員を代表して、衷心より御祝ひの言葉を申し上げます。同時に之を好機として、一言所感の一端を申し上げます。

新郎の母堂が、去る三月三十日歸朝せられた當日、初對面であつた私に對しての御依頼は、二十六年前渡布せられた時、母國に残して行かれた、令息磨君を私に紹介せられて、私は此度の歸朝中に、どうあつてもこれに嫁を迎へてやりたいと思ふのであるから、何分の御盡力を願ひたいといふ御依頼があつたので、私は其最善を致すべきことを、御約束いたしましたのであります。然るに同君に於かれては、また年も若く、且つ戦地から歸還したばかりで、柔道の修業中で、更に幾段かの資格を得るまでは、斷乎として結婚を承知しないといふ次第で、流石の母堂も、これにはほと／＼困られて、何とか本人を納得させていたゞき度いと、重ねて御依頼に及んだので、去る六月頃か、法要の爲御當人が歸郷せられた時、私は御本人に對して、人生問題處世問題より説き起して、今が其結婚の好時期であることを、諄々と申し上げたところ、すつかり諒解せられて、萬事を一任せらるゝこととなつたのであります。

それではといふことになり、夫々各方面にも御依頼もし、相協力して其候補者の物色選定にとりかゝつたのであります。其間に於ける母堂の御苦心御奔走、又布哇に於ける弟妹達の御熱意御懇情等々、眞に尊くも

あり、有り難い次第でもあつたのであります。されど武藏野の草は、數々あつても多いが、摘菜とすればさても少くないものであるといふ古歌の通り、帯に短かし襷に長し、なかく／＼に良縁が見つからず、さうこうして居るうちに、視察團一行の歸布期日も盡きてしまつたのであるが、母堂にはこの此問題が決定しないうちには、ひとり踏み止つて、東奔西走これ努めたのであります。其結果として、今日ここに此式を舉げることとなつたのであります。

新郎に於かれても、將た新婦に於かれても、先づ第一に此母堂を中心として、關係者御一同の、この御勞

苦御辛勞を、大に多として肝銘していただきたいのであります。

「天地國王父母之恩」といふ格言がありますが、國王は、天皇陛下であり、國皇と申すべきであります。先づ父母の御恩、天皇の御恩、天地の御恩といふやうに、其數々の御恩を感謝するといふことが、私共の處世の大方針の中樞であらねばならぬことであると思はるゝのであります。之を約言して申せば、「感謝の生活」であらねばならぬのであります。

而して其感謝の生活と、當然並行すべきは、「報恩の生活」であらねばならぬのであります。

以下二面へ續く

從業員大募集!

人 員 貳千名 (経験が無くても仕事が出来ます)

内 課 採炭夫 一七〇〇名 坑内機械夫 一〇〇〇名
支柱夫 一五〇〇名 坑内工作夫 五〇〇名
坑内運搬夫 一〇〇〇名

年齢 十六歳以上五十歳まで (身体壯健のもの)

賃 金 賃金會社にて賃割いたします

住 宅 一日三圓以上五圓(請負制)にて就業時間八時間乃至拾時間世帯持には社宅を無料で貸與します

就 業 場 所 獨身者のために寄宿舎あり(食費寝具共一日五十五錢)

希望者は最寄職業紹介所か町村役場又は直接會社に御申込下さい!

東北一の大炭礦!!

磐城炭礦株式會社礦業所 (福島縣石城郡内郷村)

本報發行は内郷一郷の事業に於て、其の社務は正確に對する運賃を徴するもなり

本報定価 二部五錢 少年部四錢 八錢

發行所 福島縣石城郡内郷村字三二二

編輯所 福島縣石城郡内郷村字三二二

印刷所 福島縣石城郡内郷村字三二二

平 活 版 所

「一面より強く」
 「萬有は天法に歸す」「天
 法人則に従順なるべし」は
 私の人生活であり、宗教観
 であつて、明治天皇の仰せ
 られた、「天地の公道」一教
 育勅語の御聖旨を奉々服
 膺し、以て報恩の生活をな
 すことが、之れ即ち日本精
 神である、確信せらるる
 のであります。

今日この神前の盛儀式典
 に於て、申上げた私の此念
 願を容れられて、更に御心
 身に一段の緊張を加へ、偕
 老同穴を契り、夫婦一體と
 なつて、感謝報恩の生活に
 精進して、非常時局の國策に
 順應して、其本分を盡され
 んことを、祈願してやまな
 い次第であります。かくて
 一日も早く、擧げられたお
 子様を帯同して、此神前に
 御禮詣りをせられんことを
 併せて希望いたします。

其の家を繁昌させるには
 何と言つても、家族が和睦
 でなければならぬ。家族
 不和は嫁と姑に多いことは
 一般であるが、戦死者遺族
 で、妻と遺兒一人と母との
 三人が、非常に仲よく暮し
 て居るので、界限から憂め
 られて居るといふ、事實を
 聞かされて、甚だ頼母しく
 思はれたことであつた。

斯様に立派な精神で、立
 派な行ひをされて居る、遺
 族家族に接する時、感服の
 余り、思はず目頭が熱くな
 る。尚ほ私が痛感した一事
 は、本村に常設托兒所を設
 置することである。軍人の
 遺族家族にして、勤勞によ
 り収入を得んとするも、育
 兒を大事として居る者に
 しては、如何とも術がない
 のである。然るに内郷村婦
 人團は、既に之に着眼して
 提唱せられ、着々具體化せ
 られつつありと聞く、實に
 欣快に堪へない。希くは速
 かに實現せられんことを祈
 つて已まない。

福島縣 相談委員會

軍事援護 主事 八巻胞治郎

去る九月十四日、十五日
 十六日の三日間、福島縣並
 に恩賜財團軍人援護會福島
 縣支部及内郷村統後奉公會
 の共同主催の下に、内郷村
 に於て、軍人遺族家族指導
 懇談會を開催したことは、
 本紙一二〇號に既報されて
 あつた。

懇談會の目的は、出征應
 召軍人の遺族家族を慰め激
 勵し、且つ親心を以て、相
 談相手となり、遺族の家庭
 庭事情を洞察して、現在及
 將來に就いて指導すると共
 に、心構へを正しく強く持
 ち、益々家庭を強化して
 第一線將兵をして、何等後

顧の憂ひなからしめ、又尊
 い英靈に應へ得るやう、導
 かんが爲めである。
 縣主催の懇談會は、縣下
 の各地で開催して来たが、
 其例に倣ひ、午前中は、遺
 族家族の一人一人に就て、
 身上相談を行ったのである
 が、内郷村は人の知る如く
 人事複雑して居るので、遺
 族や家族の家庭事情につ
 ては、特に深い關心を持ち
 て、身上相談に當つたので
 ある。今茲に其所感の一端
 を述べて見たいと思ふ。

出征軍人の家庭で、七十
 歳近い母と妻と、六歳と四
 歳の子供二人ある、其老い
 たる兵隊の母は、二人の子
 供(孫)の子守をなし、妻
 一人で一生懸命働いて、一
 家の生活を支へ、軍事扶助
 (生活扶助)を受けず、又
 可成仕事に村人から手傳へ
 をうけない様に努めて來
 たが、母に弱られたら大變
 だと、母の身を安じつ、
 一家を支へて居る、立派な
 軍人の妻があつた。

遺族又は家族の妻が、此
 の若さで、子供がある爲に
 仕事か思ふ様に出来ない
 勿體ないから、出来る丈働
 いて、収入を得たいと思ふ
 が、それが容易に出来ない
 子供を連れて出来る仕事は
 あるまいか、又子供を育て
 ながら働いて、収入を得る
 村役場並に會場たる各學校
 當局の御援助に對し、又身
 上相談人、方面委員各位、
 婦人會幹部各位の御盡力、
 殊に方面委員として、令名
 ある大内民恵氏には、連日
 熱心に援助協力せられたる
 厚意に對し深謝する次第で
 ある。

大内民恵著

教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 税六錢)

瀧崎善三郎氏

礦業所長に昇任

行き歸れる現代の教育制度を解體し
 て、學理と實際と、歴史と實際とを
 ら新に大内九主を提唱す。天下
 知名の士の數同枚舉に遑らざる。さ
 れどまた一人の執筆者も現はれず。

我國教育學界の權威
 前京大總長小西重直博士
 著を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地
 ノ御試練ニ基キ巨勢學園ノ大精神ヲ昇
 成仕テ不屈不撓ニ打テテ今ニ至リ云々。

日本評論社
 東京本町三丁目
 内郷村報社

麥笛吟社

寂れ行く旭家續けり秋櫻 歴奇子
 花なべて月を深へ秋櫻 修二
 歸還せる兵を圍みて夜なご哉 半仙
 秋刀魚實選炭場へも呼ばれり 素人
 コスモスを散らし傘をさし出る 若樹
 ひてを 日
 縫あきし夜なごの足を伸しけり 雲浦
 四方八方の語の内に夜なご 終ゆ
 コスモスに風の止む時なかりけり 野鷲司
 裏木戸の外れてありぬ秋櫻 六王
 見返れば遠く思つて夜なごの灯 磐岳
 朝の事何も彼もす秋櫻 紅花
 コスモスに親寄せて居る牧の馬 潮風
 風呂加減夜なごの父に知らせけり 秋
 コスモスに傷兵妹を撮り居たり 水
 起きて来て子も交りたる夜業かな 草城
 コスモスや遮断機未だ捲れ止まず 秋星子
 秋櫻咲いて歸還の兵無言 孝二
 海鳴は遠くコスモス咲き亂れ 葉舟
 コスモスや讀經靜かに流れ来る 水
 コスモスや夕暗に浮く驟に降る 曉山
 コスモスに戦争ゴッコ始まりぬ 溪流
 小供等が時きしコスモス咲き初めぬ 葉
 亂れ咲くコスモスの道敷まがり 三市
 後山の支度其儘秋刀魚焼く 山
 夜業の灯流れ居る庭を借り申す 山

將來に就いて指導すると共に、心構へを正しく強く持ち、益々家庭を強化して第一線將兵をして、何等後

を述べて見たいと思ふ。出征軍人の家庭で、七十歳近い母と妻と、六歳と四歳の子供二人ある、其老い

教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十圓 税六圓)

行き随れる現代の教育制度を解明して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の教育改革に忍びあらず。されど添だ一人の抗議者もあはれず。

我が教育界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年の御體験と實地への御試練ニ基き、我が國の大精神ヲ發揮し、不慮の改革ヲ導かん。

發行所 日本評論社
東京市橋本三丁目
支店 内郷村報社
後山の支度其儘秋刀魚焼く
夜業の灯流れ居る庭を借り申す
三浦 撫山

濱崎善三郎氏 礦業所長に昇任

當年磐炭全山の従業員から、人情課長(勞務)とうには慕はれた副所長濱崎善三郎氏は、去る二十二日を以て、一ノ瀬所長の後を繼いで、所長に昇任せられ、越えて廿七日、淺野翁頌徳記念館に於て、全職員及全従業員代表者との二部に分けて、其就任の挨拶があつた。記者は生憎出縣して居つたので、列席するを得なかつたが、歸來それに列席した人々に就いて、其状況を聴取したるに、所長の挨拶は、聲涙共に下る底の熱情を披瀝し、言々句々人々の肺腑を突き、聽者一同之に感佩感激し終て、職員の一部は小島、井上兩部長から、役付礦夫の部は渡邊勝治君から夫々、極力所長の期待に添ふ旨の答辭があつて閉會したとの事であつた。本文は記者が多忙の際、職員部の傍聴筆記を整理して、勝手に題目を附してここに掲げたのである。されば文責は、勿論記者にあるのである。乞ふ之を諒せられよ。

やまを思ふ わが人々に 涙あり
いかなる業か ならでやむべき

記者 誌一

礦業所長就任の挨拶

濱崎善三郎

一、挺身隊長
去る二十二日、倉田常務取締役河合常任監査役、本社の菅原總務齋藤經理部長の各位が、お揃ひで山に見えられ、私を二階の會議室に御呼びになつて、倉田常務取締役から、「此度は淺野社長御病氣のため、社長代理として來たのであるが、一ノ瀬専務取締役兼礦業

所長が、辭表を提出されたので、礦業所長の後任に、君を命ずるから、御辭けする様に」との御話があつたのであります。

私は歴代の所長、即ち水室、阿部、菅原、一ノ瀬各所長に仕へて所長の仕事、如何に重大で困難でむづかしいものであるかを、十二分に知悉して居ります。加之此の困難なる會社の現状に於ては



氏郎三善崎濱 長所

の皆様に、御相談してから、御辭けしたかつたのであります。それは皆様に御相談して、皆様が、ヨシ吾等も大に働け、助け合はら、濱崎御辭けせよ、と云はるれば、御辭けするし、お前の様な微力なものは、うけない方がよいとの御意見であれば、御辭退する私の心持としては、右の様に皆様に御相談してから、御辭けしたかつたのであります。腰話の御話に御座り、それを出しません、不本意ながら其場で御辭けした様な次第であります。然し私の此の心持は、御辭け取り下さる御座願ひ致します。

私は元より不徳であり、微力であり、最後の御奉公の時も、心血を傾倒して會社の此の難局打開に、努力精進する覚悟でありましたが、然し皆様の御助力御協力の實現は、絶対に此の希望理想の時局は益々重大でありまして、日本建國以來の非常時、超非常時であり、此の國歩多事多難の時、私共のやうにあらゆる産業工業の原動力である、石炭の採掘に従事する者は、一大馬力をかけ、渾身の勇氣を奮つて、増産に努めて、遂に遂に公の誠を致すことは、國民としての一大義務であり、兄弟の皆様の、がっちり手を取り合ひ、全山六百の職員が、一致團結一かたまりとなつて、ぶつつかつて行けば、難局打開、決して困難でないと思ひます。銘々があらゆる知恵を動員し、あらゆる工夫を、心血を打ち込んで、働いて行くなれば、光明の彼岸に到達することは、さまでむづかしい事ではないと思ふ。六百人も居るから、俺一人位は忘れても大丈夫だと思ふ人が、若しあつたならば、夫は大きな間違であります。銘々が持場々々よく守り堅め、自分の職分を忠實に遂行すれば、社運の打開與隆期を待つべきものがあると思ひます。

三、眠れる獅子
會社の隆盛は、即ち吾等の生活の確立であり、吾等の生活向上の源泉であります。

大勢城炭礦の眞價を發揮するの秋は、今であります。今迄は眠れる獅子であつたかも知れないが、眼より醒めた獅子の姿は、勇ましく男々しきものがある筈です。

四、災害防止
それから私は、仕事の上では、第一に災害の防止に、最大の重点を置きたいと思ひます。

抗内外の火災水災、それから人

最近本社の社友から、私に來た手紙の文句の一節に
社運既に此に至り、社の運命は即ち職員各自の夫れなり。
とあり、又
軍は既にルビコンを涉り、將に進軍の開始せられたる秋に有之全員協力邁進あるのみ候。
とありました。

以下四面へ續く

